

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【有田振興局】有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

令和5年8月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

| | 頁数 |
|--|------------|
| I 海草振興局 | 1 |
| 1. ビワキジラミ防除講習会を開催 | |
| 2. 和海地方農業者交流会（カローリング大会）を開催 | |
| II 那賀振興局 | 2 |
| 1. 「あら川の桃」、地理的表示（G I）保護制度に登録される！ | |
| 2. アグリビギナー果樹研修会を開催 | |
| III 伊都振興局 | 3-4 |
| 1. 令和5年度県生活研究グループ連絡協議会地域リーダー研修会を開催 | |
| 2. 高野山麓精進野菜現地講習会を開催 | |
| 3. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会 果樹コース（かきの栽培管理技術）を開催～ | |
| 4. 農業技術講習会 野菜コース（秋冬野菜の栽培管理）を開催 | |
| IV 有田振興局 | 5 |
| 1. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催 | |
| 2. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同現地研修会を開催 | |
| V 日高振興局 | 6 |
| 1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を開催 | |
| 2. 由良町農業士会夏季研修会を開催 | |
| VI 西牟婁振興局 | 7 |
| 1. 来年度の出荷に向けほおずき実証試験を開始 | |
| 2. 水稻優良種子採種試験ほ場検査を実施 | |
| VII 東牟婁振興局 | 8-9 |
| 1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴ育苗ほ現地研修（第3回イチゴセミナー）を開催～ ～みくまの産地協議会第3期研修生受講修了～ | |
| 2. 稲刈り体験を開催 | |

I 海草振興局

1. ビワキジラミ防除講習会を開催

下津町のびわは日本農業遺産「下津蔵出しみかんシステム」の重要な構成要素である。しかしながら、高齢化等により栽培面積が減少傾向のなか、追い打ちをかけるように令和元年、新たな害虫ビワキジラミが下津町内に侵入して被害を拡大している。産地を維持していくためにはこの新害虫の対策が喫緊の課題である。

今回は下津蔵出しみかんシステム日本農業遺産推進協議会主催で、ビワキジラミの基本的な生態と、効果的な防除体系を理解、普及するために生産者を集めて講習会を計画した。

8月18日、JAながみね営農生活センターに生産者24名が参集、講師を務めた県果樹試験場松山研究員のこれまでの研究成果をもとにした報告に熱心に耳を傾けた。

「散布回数は少なくできないのか」など多くの質問もあり、生産者が苦慮している実情も見えた。これまで必要なかった作業が追加されることを理由に生産を離れることにならないよう対応していきたい。



講習会

2. 和海地方農業者交流会（カローリング大会）を開催

和海地方農業生活連絡協議会では、コロナ禍の制限により多くの活動を休止していた。

しかし、5月に制限が解除されたことにより4年ぶりに農業者交流会を開催することとなった。海南市総合体育館において8月25日に37名の農業者（農業士、生活研究グループ、青年農業経営者協議会）が集いカローリング大会を行った。大会は3人1組のチームを編成し、対戦形式で各チーム3ゲーム行い、合計得点により順位を決めた。優勝は紀美野町生研グループ・振興局の混成チーム、準優勝は紀美野町農業士Aチームであった。

成績もさることながら、ゲームを実施中や休憩の合間に参加者同士で日頃の営農、後継者、生産技術等々の会話が行われた。情報交換の機会であり、何気ない会話中にキラリと光るものを感じた人もあった。スポーツを通じた交流で対話の中から導き出された知恵は明日の営農の糧となるかも知れない。知恵の交換によって農業をより良くするための化学反応が起こることを期待したい。



試合の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. 「あら川の桃」、地理的表示（G I）保護制度に登録される！

紀の川市桃山町を主産地とする桃は江戸時代から栽培され、「あら川の桃」のブランドとして知られている。地理的表示（G I）保護制度には桃としては全国で初めて登録され、和歌山県では「紀州金山寺味噌」、「和歌山梅酒」、「わかやま布引だいこん」に次いで4件目となる。

農業水産振興課では、「あら川の桃」の商標登録の管理をしていた「あら川の桃振興協議会」に対し、平成27年度からG I登録の推進・検討を重ね、平成31年の登録申請をサポートした。その後、農林水産省からの現地調査の立ち会い、書類の修正等後方支援を続け、7月20日に登録に至った。

今後はG I登録を活かし、「あら川の桃」を全国にPRする取り組みの支援を行っていく。



登録授与式での記念写真

2. アグリビギナー果樹研修会を開催

8月28日、農業水産振興課では、就農5年目までの新規就農者や4Hクラブ員を対象とした「アグリビギナー果樹研修会」を開催し、6名の新規就農者が参加した。

講師は令和4年度に「匠の技 伝道師」に認定された小坂憲史郎氏が務め、初めに自身が苗木生産を始めた経緯や、求められる品種の動向などについての説明があった。

その後、台木の種蒔きから出荷までには4年以上かかることや、日々の管理作業、接ぎ木の方法などの説明があった。参加者からは、どのような病害に気を付けているのか、また、どのような台木が使われているのか、などの質問が出された。

講義後は小坂氏の圃場へ移動し、芽接ぎ作業の説明を受けた後、参加者は実際に芽接ぎ作業を体験した。参加者からは、「見てると簡単に見えるが、実際にやってみると難しい」「自分のところでも練習してみます」といった声があり、熱心に取り組んでいた。



小坂氏による講義



圃場での実習

Ⅲ 伊都振興局

1. 令和5年度県生活研究グループ連絡協議会地域リーダー研修会を開催

8月1日、かつらぎ総合文化会館において、県生活研究グループ連絡協議会主催による「令和5年度地域リーダー研修会」が、開催地である伊都地域の特産品と郷土料理をテーマに開催され、県内各地域の生活研究グループ会員や県関係者など32名が参加した。

はじめに、伊都地方生活研究グループ連絡協議会会長の小林由美子氏から、伊都地方生活研究グループの活動と、橋本市の「いのこもち、ごま豆腐、柿アイス」、かつらぎ町の「みかんコンポート」、九度山町の「柿の葉寿司」について紹介し、それぞれの調理方法を説明した。その後、各料理ごとのグループに分かれ、参加者を交えて調理実習を行った。

試食、意見交換では、「思っていたより簡単に作ることができて驚いた」、「ごま豆腐は舌触りがなめらかでおいしい」、「柿アイスは柿以外にも地元の果物で代用できて良い」などの声上がり、各地域との交流を深めることができた。



調理の様子



試食、意見交換の様子

2. 高野山麓精進野菜現地講習会を開催

平成31年3月に橋本市が中心となって高野山麓農産物産地化協議会（橋本市、橋本市農業委員会、JA紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）を設立し、高野山麓精進野菜としての栽培基準を設け、橋本市とその周辺地域の地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

8月14日、橋本市隅田地区の白ごま栽培ほ場において、現地講習会が開催され、生産者や新規栽培希望者など15名が参加した。

はじめに、山田主査が、白ごまの栽培方法や連作障害対策について説明し、続いて、園主の秋山康弘氏から、播種や施肥・土寄せ・追肥といった栽培管理技術と生育状況について説明があった。

参加者からは、「追肥の施用時期や方法」、「収穫後の乾燥方法」等の質問があった。



講習会の様子

3. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会 果樹コース（かきの栽培管理技術）を開催～

8月25日、かきの栽培管理に関する技術講習会を開催し、就農を希望されている方や就農間もない果樹農家15名が受講した。今回の研修会では、秋の収穫期に向けた栽培管理を中心に、講義と現地実習を行った。

はじめに森口普及指導員が、果実の着色進行に関する条件（気温、光、土壌養分）や着色促進技術、適期収穫、収穫後の軟化抑制対策及び農作業中の熱中症対策等について講義を行った。続いて間佐古普及指導員が、カメムシと炭疽病について講義を行い、台風通過後や秋以降に多発するカメムシの、適期での薬剤防除の重要性について説明した。

現地実習では、九度山町のかき園（刀根早生）で、森口普及指導員が、摘葉処理と固形アルコールを用いた樹上脱渋の方法を説明し、受講生が樹上脱渋処理を行った。

受講生からは、「摘葉処理の程度」に関する質問や、「自分の園でも樹上脱渋を試してみたい」といった感想があった。



講義の様子



現地研修（摘葉、樹上脱渋）の様子

4. 農業技術講習会 野菜コース（秋冬野菜の栽培管理）を開催

8月31日、秋冬野菜の栽培管理に関する技術講習会を開催し、就農希望者や新規就農者の9名が受講した。

山田主査が、キャベツ、はくさいの栽培方法や根こぶ病やヨトウムシ類等の病害虫防除とにんじん、たまねぎの栽培方法について、間佐古普及指導員が、農作業中の熱中症対策、国際水準GAPへの対応について、それぞれ講義した。

講義終了後、セルトレイと育苗培土、キャベツ種子を用いた播種の実習を行い、「松波」のコート種子と普通の種子の2種類を使用することで、コート種子の蒔き易さを体感してもらった。

受講者からは、「育苗期間中の管理方法」について質問があった。



セルトレイへの培土準備の様子



キャベツ播種の様子

IV 有田振興局

1. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

8月29日、有田管内で5年以内に就農した農業者と女子農業者を対象とした合同研修会を参加者16名のもと有田中央高校圃場において開催した。匠の技伝道師である佐原洋一氏に講師をお願いし、来年の着果を見据えた温州みかんの仕上げ摘果について研修を行った。参加者からは、「葉果比はどれくらい？」や「先端のみかんを残すのが基本だが、2番目の品質が良い場合はどうするのか？」などについて、質問があり講師が丁寧に答えていた。また、参加者同士で積極的にコミュニケーションを行い、お互いを知る良い機会となった。3月には剪定の研修会を予定しており、佐原氏には引き続き、講義と実演を行っていただく予定である。



粗摘果の実演

2. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同現地研修会を開催

8月30日、現地研修会が広川町内において農業士34名と4Hクラブ員9名（計43名）参加のもと開催された。一堂に会しての開催は令和元年以来4年ぶりとなった。研修先は4箇所、AQマル南選果場で光センサー選果機と業務概要、池田農園株式会社では令和4年に導入した光センサー選果機や保冷库、西谷農園ではいちじく栽培やいちじくで取り組み始めた6次産業化について説明を受け、稲むらの火の館では防災について学習した。

参加者からは「選果機の処理速度は？」、「保冷库は常に一杯なのか？」、「いちじくの苗はどのように仕立てるの？」などの活発な質問があった。



AQマル南選果場



池田農園株式会社 保冷库

V 日高振興局

1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を開催

8月4日、日高地方農業士会女性部会（部会長：片山綾子氏）では、女性農業士相互の研さんと親睦を図るため先進地研修を実施し、11名の参加があった。

今回は京都市中央市場内にある「京の食文化ミュージアム・あじわい館」と大型農産物直売所「旬の駅京都店」で研修を行った。

「あじわい館」では京野菜の特徴や京の食文化、京都市中央市場の概要など、映像や展示物などで研修した。また、煎茶の入れ方体験も行い、入れ方によりお茶の味が大きく変わることに感心していた。

農産物直売所「旬の駅」は京都府最大級の販売所で、売り場の広さや品揃えの多さなど、参加者は驚いていた。



あじわい館



煎茶の入れ方体験

2. 由良町農業士会夏季研修会を開催

8月23日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）では、農業士各々の研さんと親睦を図るため夏季研修会を実施し、8名の参加があった。

今回は、日高川町と御坊市のかんきつ園で「ゆら早生」の現地研修、また暖地園芸センターで野菜の新技术、栽培等について研修を行った。

「ゆら早生」現地ほ場の一カ所は、令和4年度「匠の技 伝道師」に認定された坂本氏の園地を見学した。参加者からは「樹勢がよく、着果量も多い」「樹の大きさが自分の園とは違う」等の意見が出た。

暖地園芸センターでは、センターの沿革と試験内容について説明を受けた後、試験ほ場に移動して現在行っている試験の状況を見学した。参加者の中にはミニトマトを栽培している方もおり、熱心に話を聞いていた。



ゆら早生ほ場



暖地園芸センター

VI 西牟婁振興局

1. 来年度の出荷に向けほおずき実証試験を開始

当管内では8月盆にあわせて、直売所出荷向けにほおずきが栽培されているが、株枯れや白絹病などの病害の多発が問題となっており、対策として、実生苗から無病の地下茎を養成する栽培方法の実証試験を行っている。

去る7月31日に栽培研修会を開催し、試験ほ場の生産者やJA紀南営農指導員、当課普及指導員合わせて10名が出席した。谷普及指導員から前年の実証試験の生育調査の結果を報告し、今年度の試験内容や各生産者の栽培管理状況について意見交換を行った。生産者からは、実生苗による地下茎の生産は慣行栽培より手間がかかるため、省力的な播種方法の検討が必要なことや今年度発生が多かったホコリダニ対策等について、活発な意見交換がなされた。

これを受けて、8月17日に実証試験ほ場から採種した種子を、暖地園芸センターで滅菌処理し、8月28日に田辺市秋津川の生産者ととも

に200穴セルトレイに播種した。今後ほおずきの安定生産および省力化技術の確立に向け、栽培管理方法の現地検討を継続していく。



播種作業（8月28日）

2. 水稻優良種子採種試験ほ場検査を実施

県では、水稻優良種子の安定的な供給のため、和歌山県農作物種子協会の行う種子生産において、生産者への巡回指導や採種ほ場の検査等を行っている。

現在は西牟婁地方のみで行われており、田辺市中辺路町3か所と上富田町1か所において「キヌヒカリ」、「きぬむすめ」が作付けされている。

8月3日、22日、31日に和歌山県農業協同組合連合会の担当者、JA紀南営農指導員、農業水産振興課の谷普及指導員、日比技師の4名が出穂期と糊熟期、収穫前のほ場検査を実施し、種子伝染性病害や異品種の混入がないことを確認した。一部のほ場でいもち病発生や8月14～15日に襲来した台風7号の影響などが懸念されたが、現在の生育は良好であり、平年並の収穫予定である。

今後は、収穫した生産物の検査や農業試験場での発芽率検査が予定されており、当課では、優良種子の生産に向け、生産者への助言や指導を引き続き行う。



収穫前のほ場（上富田町、8月31日）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 ～いちご育苗ほ現地研修（第3回イチゴセミナー）を開催～

8月4日、那智勝浦町苺生産組合（松出真紀会長）は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、育苗ほ現地研修（第3回イチゴセミナー）を開催した。当日は、生産者14名（うち新規就農者2名、新規就農予定者1名）、JAみくまの職員2名及び農業水産振興課1名が参加した。各生産者の育苗ほ場巡回では、生産者同士で灌水頻度や施肥、遮光等の育苗管理についての意見を交換した。

ほ場巡回後は、JAみくまの営農経済センターでの栽培講習会において、JAみくまの笹平主事から出荷物の安全・安心を目的に農薬の適正使用、生産履歴表の記入について、当課坂井普及指導員から今後における定植までの育苗管理について説明を行った。今後は9月に花芽検鏡を行い、その結果を基に各生産者は適期定植に取り組む。



育苗ほ現地巡回研修

～みくまの産地協議会第3期研修生受講修了～

8月31日、みくまの産地協議会（石田 守会長）は、就農準備資金を活用し、令和4年9月1日から1年間、同協議会での研修を修了した新規就農受入研修生に修了証を授与した。修了生（大阪からのIターン者）は、新宮市において、9月中に農地中間管理事業のマッチング等による農地を確保しいちごの営農を予定している。

当課は、研修生を認定新規就農者の認定に向けて就農計画の作成等の支援をしている。

今後も新たな就農希望者の受け入れを進め、同協議会策定の「イチゴ新規就農支援プログラム」を活用した新規就農受入研修を実施する。



研修時の様子

2. 稲刈り体験を開催

8月28日、近畿大学附属新宮中学校の1年生33人は、MYNS 営農組合（下阪殖保会長）及びJAみくまの、農業水産振興課の指導のもと、新宮市熊野川町内において稲刈りを体験した。

この日収穫した稲は、同校生徒が本年の4月27日に、田植えしたものである。当課岩橋普及指導員が水稻栽培の概要や稲刈りから白米になるまでの作業内容について生徒に説明した。生徒は、JAみくまの営農指導員から稲刈りでの鎌の使い方などの説明を受けた。

その後、稲を刈り取る班と刈り取った稲の束をコンバイン（脱穀機）へ持って行く班に分かれて作業を進め、その場で脱穀した。さらに倉庫内で、乾燥から出荷用の袋詰めまで、一連の流れを見学した。

生徒からは「毎日食べているお米がここまで苦勞して作られるものだと、田植えから稲刈りを通じて実感できた」等感想があった。

この日収穫した米は「近中米」として同校の保護者を中心に販売される予定である。



稲刈り体験の様子

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4919 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |